

事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

作成日：平成 19 年 9 月 10 日

担当：人間開発部第四グループ保健人材育成チーム

1. 案件名： ラオス国 セタティラート大学病院医学教育研究機能強化プロジェクト

2. 協力概要

(1) プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述

本プロジェクトは、セタティラート病院の教育病院としての臨床研修に関する知見の拡充、臨床研修体制の改善、臨床研修の指導者の能力強化を通じ、同病院で実施されている、保健科学大学医学部学生の臨床実習と医学部卒業後 2 年以内の医師の卒後早期臨床研修の質の向上を目的とする。

(2) 協力期間：2007 年 12 月から 2010 年 11 月（予定）

(3) 協力総額（日本側）：約 3.4 億円

(4) 協力相手先機関：セタティラート病院

(5) 裨益対象者及び規模、等：

1) 直接裨益者：

- ・ セタティラート病院において保健科学大学医学部学生の臨床実習と医学部卒業後 2 年以内の医師の卒後早期臨床研修を実際に指導している医師（以下、「指導担当医」とする）約 80 名（ターゲットグループ）
- ・ 臨床実習をセタティラート病院で受ける保健科学大学医学部学生毎年約 300 名（1 学年約 100 名×3 学年）、臨床研修をセタティラート病院で受ける医学部卒業後 2 年以内の医師毎年約 30 名

2) 間接裨益者：ラオスの他の病院の医師（約 1500 名）

3. 協力の必要性・位置付け

(1) 現状及び問題点

ラオス国政府は、2020 年までの保健医療戦略である「保健戦略 2020」において、保健医療サービスを公平に全国民に対して提供することを掲げており、各レベルにおける医療従事者の人材育成を最も重要な政策の一つとして位置づけている。

セタティラート病院は病床数 175 床の総合病院で、ラオスにおける中核的医療機関であるとともに、医学部学生の臨床教育、医師の卒後教育を担う機関である。わが国は、無償資金協力「新セタティラート病院建設計画」（1998～2000 年度）により新病院建設に必要な資金を供与し、2000 年 11 月に新病院が完工した。併せて、1999 年 10 月から 5 年間、技術協力プロジェクト「セタティラート病院改善プロジェクト」を実施し、同病院の医療サービス及び研修機能の向上を支援した。2004 年 9 月、セタティラート病院はビエンチャン市立病院からラオス国立大学医学部の大学病院に格上げされ、名実ともに教育病院として位置づけられることになった。2007 年 5 月、ラオス国立大学医学部の管轄が教育省から保健省に移管されるとともに、保健科学大学に改組された。

他方、地方においては、医師の能力不足や数の不足が見られ、地方の実情に対応できる質の高い医師の養成が求められている。ラオス国立大学医学部は、卒業直後の医師に対する 2 年間のファミリー・メディスン・プログラムを立ち上げ、地方において広く患者のニーズに対応できる医

師の育成に着手し始めている。教育病院であるセタティラート病院はこれら医師の臨床研修先の一つであり、加えて医学部学生の臨床実習も受け入れている。しかしながら、現状では同病院の教育機能はまだ不十分な状況にある。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

国家保健医療戦略「Health Strategy to 2020」では、保健医療開発に関して6つの基本方針を打ち出し、それぞれに具体的な戦略を提示している。その中で、保健医療分野で働くスタッフの能力、特に心構え、医療倫理、医療技術の強化が掲げられており、医療従事者のサービスの質の改善の必要性が指摘されている。さらに、ラオス国での貧困削減ペーパーである国家成長貧困撲滅戦略（National Growth and Poverty Eradication Strategy: NGPES）においては、保健セクターは優先セクターの一つとして位置づけられている。

(3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業実施計画上の位置付け（プログラムにおける位置付け）

外務省の「対ラオス国別援助計画（2006年9月）」では、6つの重点分野の一つに「保健医療サービス改善」を掲げており、その中の「重点分野別援助方針」として、保健医療分野の人材育成（医療従事者の技術レベル向上）が謳われている。また、平成18年度版 JICA 国別事業実施計画には、3つの保健医療関連プログラムが明記されており、そのうち本プロジェクトは「保健人材育成強化プログラム」に位置づけられている。

4. 協力の枠組み

〔主な項目〕

(1) 協力の目標（アウトカム）

① 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

「セタティラート病院において保健科学大学医学部学生の臨床実習及び医学部卒業後2年以内の医師の卒後早期臨床研修の質が改善される」

<指標・目標値>セタティラート病院において臨床研修を受けた医学生/研修医の満足度、専門機関によるセタティラート病院での臨床研修の評価

② 協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

「ラオス国において医師に対する臨床研修の質が改善される」

<指標・目標値>医学部学生およびファミリー・メディスン・プログラム研修医の成績

③ 協力終了後に達成が期待される目標（スーパーゴール）と指標・目標値

「ラオス国において医師の技術、知識および態度が向上する」

<指標・目標値>郡病院の利用度、郡病院での医師の数

(2) 成果（アウトプット）と活動

① アウトプット1:セタティラート病院の教育病院としての臨床研修に関する知見が拡充される。

<指標・目標値>根拠に基づく医療（Evidence Based Medicine : EBM）に関する研修を受講した医師の数、病理診断数、他の病院から転送された患者数、臨床症例の蓄積数

活動：臨床研修に関するベースライン調査の実施、体系的な臨床症例の呈示を念頭に置いた

EBMに関する指導担当医への研修の実施、症例のフォロー/蓄積を視野に入れた診療記録の改善、EBMのための臨床症例の蓄積、研修生を対象とした臨床症例に関する症例検討会の実施、研修生向けの症例呈示/参照用学習教材の作成

②アウトプット2：セタティラート病院において研修管理体制が改善される。

<指標・目標値>臨床研修のための月例会議開催数、関係機関で開催される会議およびセミナー数

活動：セタティラート病院での臨床研修の理念の設定、臨床研修を担当する新しい委員会の設置、臨床研修のための月例会議の開催、セタティラート病院での臨床研修におけるプロセス・教訓などの文書化、関係機関との連携による臨床研修に関するセミナーの開催、外部監査の設定

③アウトプット3：指導担当医の能力が強化される。

<指標・目標値>セタティラート病院における指導担当医の技術・知識・態度、セタティラート病院で指導者研修（TOT）を受けた指導担当医の数

活動：TOTのためのプログラム・カリキュラムの策定、TOTのための指導教材の作成、4教育病院**および県病院で従事する医師に対するTOTの実施、指導担当医に対するモニタリングのための基準の設定、基準に沿った指導担当医のモニタリング実施

**4 教育病院とは、ビエンチャン市内のセタティラート病院、マホソット病院、ミタパープ病院、母子病院を指す。

(3) 投入（インプット）

① 日本側（総額約 3.4 億円）

- 1) 専門家：総括/EBM/疫学、医学教育/教授法、臨床病理、内科、救急、病歴管理、臨床検査、研修管理/評価
- 2) 本邦研修：医学教育
- 3) 機材供与：医学教育用機材、教育目的の臨床医学用機材

② ラオス国側

- 1) 人材
プロジェクト・ディレクター
プロジェクト・マネージャー
カウンターパート
- 2) プロジェクト実施に必要な執務室および施設設備の提供
- 3) その他
運営・経常費用
電気、水道などの運営費

(4) 外部要因（満たされるべき外部条件）

- 1) 前提条件
 - 保健省からプロジェクト実施に関する協力および同意が得られる。
- 2) アウトプット達成のための外部条件
 - 指導担当医が指導担当医として業務を継続する。
 - セタティラート病院において、患者数が大幅に減少しない。

- 3) プロジェクト目標達成のための外部条件
 - 保健省が、各教育病院において臨床研修のための予算を確保し続ける。
- 4) 上位目標達成のための外部条件
 - 保健省が、本プロジェクトの成果を活用して臨床研修の改善を図る。
- 5) スーパーゴール達成のための外部条件
 - 修士あるいは博士課程取得のために、留学プログラム（長期研修）が遂行される。
- 6) スーパーゴールを継続するための外部条件
 - 保健省の政策に沿って、医師が郡病院および保健センターに適切に配置される。

5. 評価 5 項目による評価結果

以下の視点から評価した結果、協力の実施は適切と判断される。

(1) 妥当性

本プロジェクトは、以下の理由から妥当性が高いと判断できる。

- 国家保健医療戦略「Health Strategy to 2020」では、保健医療開発に関して 6 つの基本方針を打ち出し、それぞれに具体的な戦略が示されている。その中で、保健医療分野で働くスタッフの能力、特に心構え、医療倫理、医療技術の強化が掲げられ、医療従事者のサービスの質の改善の必要性が指摘されている。さらに、ラオス国での貧困削減ペーパーである国家成長貧困撲滅戦略（NGPES）においては、保健セクターは優先セクターの一つとして位置づけられている。本プロジェクトは、医療従事者の中でも、中心的役割を担う医師に着目し、医師としての基本的な能力の涵養のため、セタティラート病院における医師の臨床研修の質の向上を図ることとしている。この取組みにより、医師の質の向上が長期的には期待できることから、本プロジェクトはラオス政府の戦略やプログラムの方向性、ニーズに合致している。
- 上記 3 の「(3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業実施計画上の位置付け」で説明しているとおり、本プロジェクトが達成すべき長期的な目標は、外務省の「対ラオス国別援助計画」および「JICA 国別事業実施計画」の内容と整合性があると言える。

(2) 有効性

本プロジェクトは、以下の理由から高い有効性が見込まれる。

- 複数のアウトプットにより相乗効果を生むことがプロジェクト目標であり、それを達成するために、①「教育病院としての臨床研修に関する知見の拡充」、②「研修管理体制の改善」および③「指導担当医の能力強化」の 3 つのアウトプット項目が設定されている。①に関しては、教育病院として学生や医師に対する臨床研修を実施するための知見・ノウハウの基盤を拡充するべく、EBM に関する研修の実施、症例の蓄積、研修生を対象とした症例検討会などを行う。②に関しては、セタティラート病院において研修管理体制の整備を進めていくが、同時に他関係機関との連携を取りながら、臨床研修を効率的に進めていけるような体制を整える。また、③に関しては、セタティラート病院で勤務する臨床研修指導医に対して TOT を行う。このように、各アウトプットが達成されることにより、その相乗効果としてプロジェクト目標である「医師に対する臨床研修の質の改善」が達成されるデザインとなっている。したがって、アウトプット①から③を効果的に組み合わせることにより、協力期間終了時にプロジェクト目標が達成される見込みは高いと思われる。

(3) 効率性

本プロジェクトは、以下の理由から効率的な実施が見込まれる。

- 過去に実施された技術協力プロジェクト「セタティラート病院改善プロジェクト」では、技術面の基礎を築き上げてきたため、そこで培われた多くの経験や教訓を有効に活用し、かつ育成された人材を効果的に活用することにより、効率的な活動が期待される。
- アジア開発銀行、カルガリー大学などドナー間で類似した活動が重複しないように、他ドナーと十分なコミュニケーションを図り、適切な調整を行うことは効率性の面で極めて重要である。プロジェクトの開始とともに、ドナー間との連携およびコミュニケーションを的確に行えるような環境を整えていく。

(4) インパクト

本プロジェクトの実施によるインパクトは、以下のように予測される。

- 全国への波及を視野に入れた臨床研修の質の改善（上位目標）や医師の能力向上（スーパーゴール）を達成するには、ビエンチャン市内の他の3つの教育病院（マホソット病院、ミタパーブ病院、母子病院）を巻き込む必要がある。したがって、本プロジェクトでは、セタティラート病院での臨床研修から得られた経験、教訓などを文書化して記録に残し、関係者を巻き込んだ臨床研修に関するセミナーを開催することにより、他の3つの教育病院との連携を図り、プロジェクトで習得した技術や知識を共有していく。すなわち、セタティラート病院は、他の3つの教育病院の参考となるように、臨床研修の質の向上を目指す。また、プロジェクト活動として外部監査を行うことになっているが、他の教育病院や保健省治療局からの建設的な提言をフィードバックすることにより、セタティラート病院の臨床研修機能を高めていく。このように、他の3つの教育病院との連携を強化し、関係者間の共通認識を共有することにより、全体のレベルアップを図れるような仕組みを整備すれば、プロジェクトが終了してから数年後には上位目標の達成が期待できる。
- アウトプット3の「指導担当医の能力強化」に関しては、セタティラート病院で従事する指導担当医に対してTOTを行うが、上位目標およびスーパーゴールの達成に向けた準備をプロジェクト協力期間中から進めるために、他の3つの教育病院および地域・県病院の臨床研修指導医の能力強化を視野に入れることが求められる。したがって、本プロジェクトの後半では、プロジェクト全体の進捗状況をみながら、他の3つの教育病院や地域・県病院の研修指導医に対してTOTを行うことにより、全国への波及を視野に入れた準備を行う。このように、プロジェクト実施期間中から、上位目標およびスーパーゴールを達成するための方策および手順を検討し、セタティラート病院から全国に波及するためのメカニズムを確立することは重要である。

(5) 自立発展性

本プロジェクトの自立発展性は、以下のとおり期待される。

- 妥当性でも述べているが、国家保健医療戦略「Health Strategy to 2020」では、医療従事者のサービスの質の改善の重要性が掲げられている。したがって、本プロジェクトの実施期間中および協力期間終了後も、ラオス国側からの政策的な支援は見込まれる。
- 本プロジェクトでは、オーナーシップ醸成およびプロジェクト活動の継続性を促進する活動が組み込まれている。すなわち、アウトプット3の活動のように指導担当医の能力を強化することに

より、これらの医師が主体性を持って他の医師および医学生への指導にあたるため、本プロジェクトのオーナーシップおよび継続性を高めることが期待される。また、臨床研修の理念を設定する活動では、日本における臨床研修の状況を実地に見てきた本邦帰国研修員を参画させたい。また、病院内関係者が参加型で臨床研修の理念を設定することを想定しており、それに沿って活動を促進させることは、プロジェクトに対するカウンターパートのオーナーシップを高めることにつながる。

6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

本プロジェクトの長期的な観点では、4つの教育病院における臨床研修の質の向上（上位目標）を通じて、全国の郡病院や保健センターに配置される医師の能力強化（スーパーゴール）を目指しており、農村地域に居住する貧困層にも裨益する点に配慮したプロジェクト・デザインとなっている。

7. 過去の類似案件からの教訓の活用

本プロジェクトに先立って1999年10月から5年間実施された「ラオスセタティラート病院改善プロジェクト」では、カウンターパートがほぼ必要な技術と知識を習得し、同病院の医療サービスと研修機能が向上したものの、医師の卒後研修を体系的に行うことができなかった。同プロジェクトの終了時評価では、卒後研修を行う教育病院の前提条件として、患者のデータを記録し、データの利用を容易にする必要がある旨指摘している。本プロジェクトでは、教育病院としての機能強化という観点から、診療記録の改善および症例の蓄積を行うことになっており、体系的な臨床研修の実施を目指している。

8. 今後の評価計画

2009年5月頃	中間評価調査団派遣予定
2010年5月頃	終了時評価調査団派遣予定